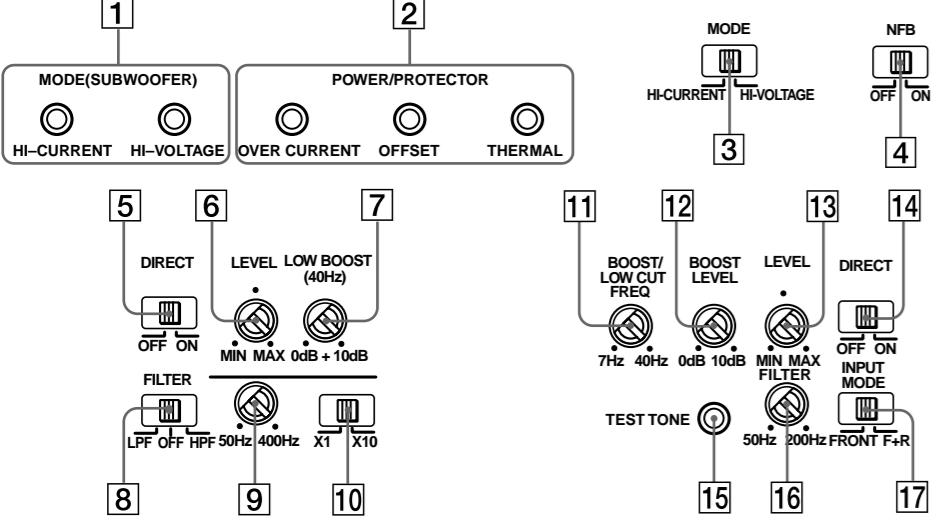


## 主な特長

- 最大出力150 W × 4 + 500 Wの余裕あるパワー(4Ω負荷)
- デジタルソースに対応する広いダイナミックレンジ、低ひずみ率(0.005%、NFB ON)
- 1系統のライン出力から2wayマルチシステムの組める2ch入力5ch出力機能
- アンプ内部の温度上昇やスピーカー保護のための保護回路内蔵
- 安定した電源を供給する高効率バッテリーパワースイッチを採用
- フィルターおよびローブースト回路をパスし、より高音質が楽しめるソースダイレクトスイッチを搭載
- 幅広い音域に対応する可変型フィルター、ハイパスフィルターおよびローブースト回路を内蔵
- カットオフ周波数選択可変ローパスフィルター、ハイパスフィルターおよびローブースト回路を内蔵
- ハイカレント(1Ω)とハイボルテージモード(4Ω)の切り替えスイッチ(サブウーファー)を搭載
- NFB(ネガティフィードバック)オン/オフ回路搭載
- 電圧増幅段用独立電源搭載
- パルス電源 DC12Vのバッテリーパワーを半導体スイッチによって高速バ尔斯に変換し、それをパルストランジスで昇圧、さらに④⑤電源に分り分けたあと再び直流(DC)に戻すコンバーターのこと、小型軽量、低出力インピーダンスを有する特性をもつています。

## 各部の名称と働き



① モード(サブウーファー)インジケーター  
ハイカレント(HI-CURRENT)モードかハイボルテージ(HI-VOLTAGE)モードを表示します。

② POWER/PROTECTOR(電源/保護回路)インジケーター

• OVER CURRENT:  
本機の動作中、緑色に点灯します。スピーカー端子がショート(短絡)しているときや異常に大きな音が入ったときにアンバー(橙色)に変わります。

• OFFSET:  
本機の動作中、緑色に点灯します。入出力端子(スピーカー端子もしくはピンジャック)に異常電圧が生じたときにアンバー(橙色)に変わります。

• THERMAL:  
本機の動作中、緑色に点灯します。アンプ内部の温度が異常に高くなったときにアンバー(橙色)に変わります。ハイカレントモードにすると発熱を抑えることができます。

③ ハイカレント/ハイボルテージモード(サブウーファー)切り替えスイッチ

• HI-CURRENTモード:  
スピーカーのインピーダンスが2Ω(または1Ω)のときに設定します。スピーカーを並列接続することでパワフルなサウンドをお楽しみいただけます。

• HI-VOLTAGEモード:  
スピーカーのインピーダンスが4Ω(または2Ω)のときに設定します。ダイナミックレンジの広い抜けの良い音質でお楽しみいただけます。

④ NFB切り替えスイッチ

ONになると、NFB回路が働き、アンプにより発生する音のひずみを低減します。

ちょっと一言  
NFB回路はアンプにより発生する静特性のひずみを低減する効果があるものの、スピーカーが発生する逆起電力による音の渦りの影響を受けます。渦りのない澄んだ音で再生するためには、NFBスイッチをOFFにしてください。

⑤ DIRECTスイッチ

ONになるとローパスフィルター、ハイパスフィルターおよびローブースト回路を通さなくなります。

ちょっと一言  
HPF/LPFをご使用にならない場合は、DIRECTスイッチをONにした方がより良い音質でお聴きいただけます。

⑥ LEVELつまみ

他のカーオーディオなどを接続する場合、このつまみで入力レベルを調節します。入力レベルが小さい場合はMAXの方向に、大きい場合はMINの方向につまみを回してください。

ノイズを少なくしたい場合には、レベルつまみ(ゲイン)をMINの方向に回し、カーオーディオのボリューム設定を大きくしてください。

⑦ LOW BOOSTつまみ(図1参照)  
低域の出力レベルを調整することができます。40Hz付近の周波数の音を最大10dBまで増幅します。

⑧ FILTER選択スイッチ  
LPF側にするとローパス(低音域通過)フィルターがかかり、HPF側にするとハイパス(高音域通過)フィルターがかかります。

DIRECTスイッチをONにするとフィルターはかかりません。

⑨ カットオフ周波数設定つまみ(フロント/リアー)(図2参照)  
ローパスまたはハイパスフィルターをかけた場合のカットオフ周波数(50~400Hz)を設定します。

⑩ 1/x10切り替えスイッチ(図2参照)  
1/x10にすると、⑨で設定したカットオフ周波数(50~400Hz)を10倍(500Hz~4kHz)にします。

⑪ BOOST/LOW CUT周波数(サブソニックフィルター)設定つまみ(図3参照)  
超低域周波数(7~40Hz)をコントロールする周波数を設定します。

⑫ BOOST LEVELつまみ  
BOOST/LOW CUT周波数設定つまみ(⑪)で設定した周波数の音を最大10dBまで増幅します。

⑬ TEST TONEボタン  
ボタンを押すと内蔵している発振器が作動しシステムの状態がチェックできます。ボタンを押して音が聞こえれば正常です。

⑭ カットオフ周波数設定つまみ(サブウーファー)(図4参照)  
ローパスフィルターをかけた場合のカットオフ周波数(50~200Hz)を設定します。

⑮ サブウーファー入力モード選択スイッチ  
サブウーファー入力を使用しないときにサブウーファーの信号をフロント信号からとる(FRONT)か、フロントとリアを合わせた信号からとる(F+R)かを選択できます。

## ご注意

### 設置上のご注意

- 本機は12ボルトマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24ボルト車では使えません。
- 次のような場所への取り付けはお避けください。
  - 直射日光が当たる場所、ヒーターの熱風を直接受ける場所など、温度が極端に高いところ
  - 雨が吹き込んだり、水がかかったりする場所や湿気の多いところ
  - ほこりの多いところ
- ヒートシンク面を上にして取り付けてください。ヒートシンクの上にマットやカーペットをかけないでください。
- 冷却ファンをぶきがないように取り付けてください。
- 本機にはDC-DCコンバーターを使用していますので、ラジオやアンテナの近くに取り付けると、ラジオやテレビ放送の受信を妨害をおぼすことがあります。なるべく離れた位置に設置してください。
- 運転の妨げにならない場所で、同乗者に危険がおぼないところを選んで取り付けてください。
- 取り付けと接続終わったら、ブレーキランプやライト、ホーン、ウインカーなどすべての電装品が正しく動作することを必ず確認してください。

### 使用上のご注意

- 窓を閉めきった自動車を直射日光下に放置すると、車内は相当な高温になります。このようなときは、車内の温度を下げてからご使用ください。
- 次のような場合には、出力トランジスターやスピーカーを保護するため、アンプ内部の保護回路が働き、POWER/PROTECTORインジケーターの色が緑から橙に変わり、スピーカーから音が聞こえなくなります。
  - アンプ内部の温度が異常に高くなった場合
  - 異常が発生してDC電圧が発生した場合
  - 出力端子がショートした場合
- このような場合には、すぐに接続してある機器の電源を切り、異常の原因をお調べください。温度上昇が原因と考えられる場合は、しばらく放置して本機の温度を下げてからお使いください。
- 弱ったバッテリーで使用しないでください。本機の性能は電源の状況に左右されるため、十分に性能を発揮できません。
- 安全のため、運転中は車外の音が十分聞こえる程度の音量でご使用ください。

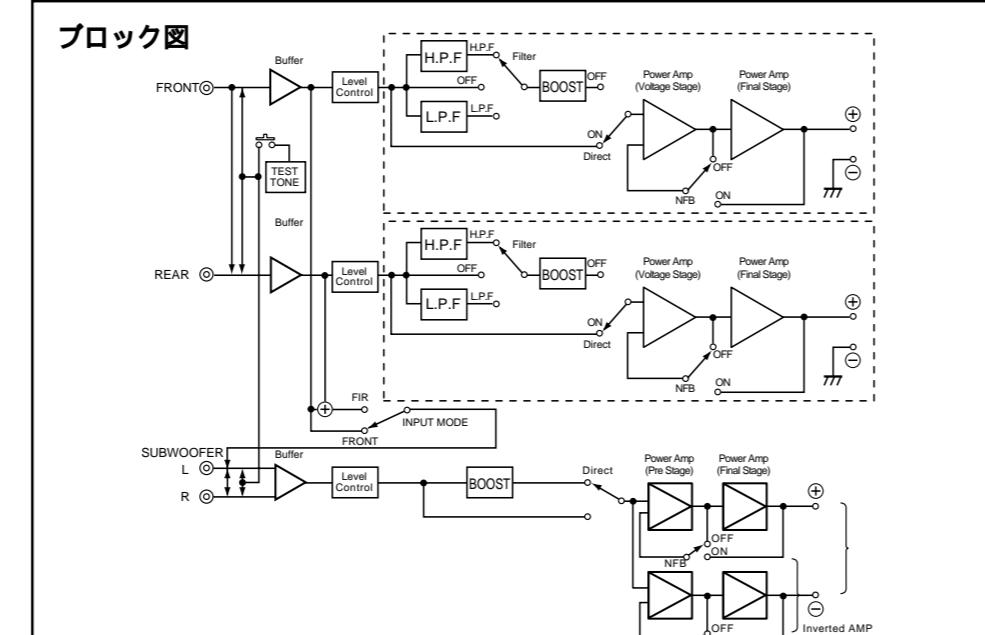
### ヒューズの取り換えかた

ショートしたときや、本機に故障があるときは、ヒューズが切れ、本機に過大電流が流れることを防ぎます。ヒューズが切れた場合は、電源コード、アースコードの接続を再確認してからヒューズを交換してください。交換したあともすぐ切れる場合は、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

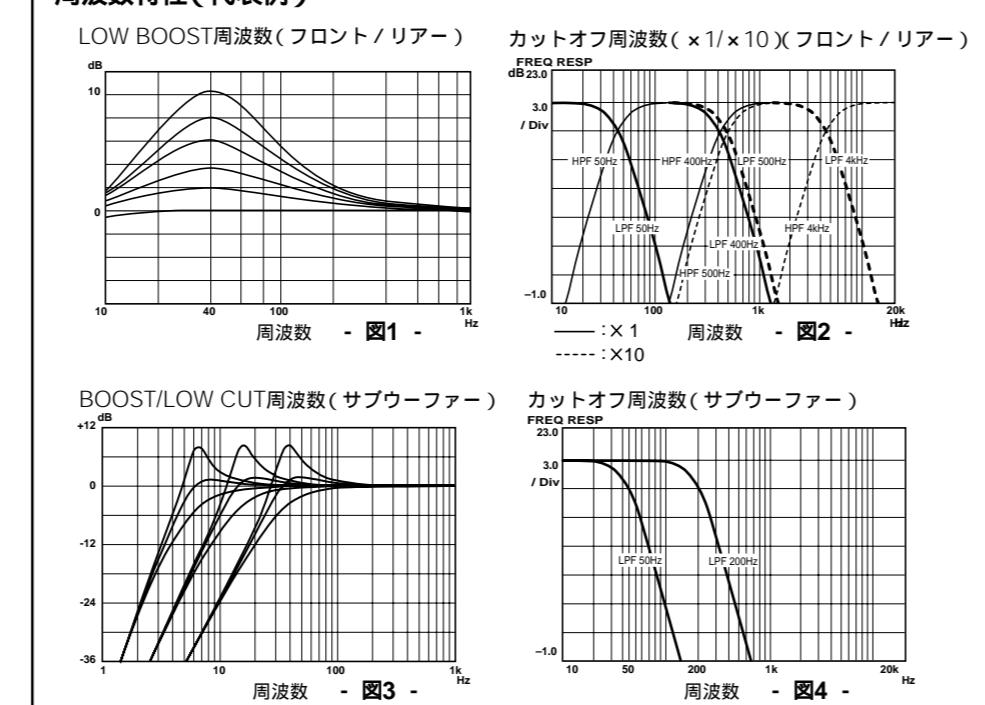
#### ご注意

- 指定のアンペア数のヒューズ以外はお使いにならないでください。故障の原因になります。
- ヒューズは4本までを使用しないで、十分な性能を発揮できなかったり、電源が立ち上がらない場合があります。

### ブロック図



### 周波数特性(代表例)



## ⚠️ 警告 安全のために

### 警告表示の意味

- 取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ⚠️ 警告 この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死や大けがなど人身事故の原因となります。
- ⚠️ 注意 この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えることがあります。



⚠️ 警告 ⚡️ 火災 ⚡️ 感電 下記の注意を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

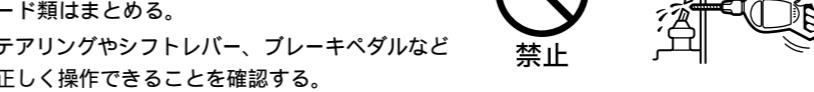
### 本機はDC12Vマイナスアース車専用です

本機に付属の電源コードを、大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。

### 運転操作や車体の可動部を妨げないように取り付ける

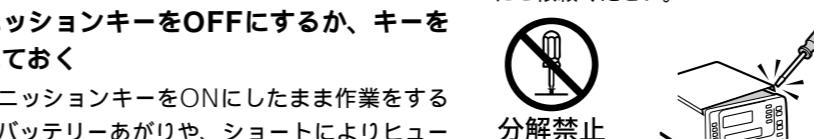
運転の妨げになる場所、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類はまとめる。
- ステアリングやシートレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。



### 分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ると、リード線の電流容量を超えてしまいます。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



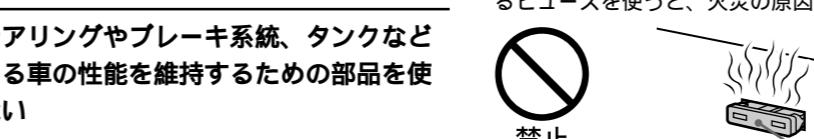
### 取り付け、接続作業をするときには、必ずイグニッションキーをOFFにするか、キーを抜いておく

イグニッションキーをONにしたまま作業をすると、バッテリーあがりや、ショートによりヒューズ飛びや発煙などの危険があります。



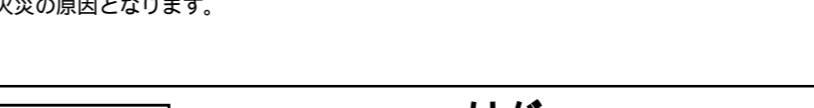
### 規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ず電源コードのヒューズケースまたは本体に記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。



### ステアリングやブレーキ系統、タンクなどにある車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。



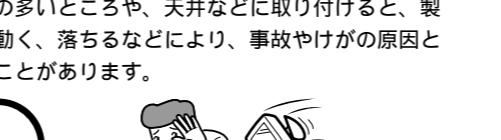
### 自動車に損害を与えることがあります。

### 付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。

### 安定した場所に取り付ける

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。



### 本機の通風口や放熱板をふさがない

通気口や放熱板などをふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



SONY®

## ステレオパワーアンプ

### 取扱説明書

お買上げいただきありがとうございます。

⚠️ 警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

### XM-7557

Sony Corporation ©1999 Printed in Japan

### 主な仕様

#### 回路方式

Pure Direct Drive SEPP回路

パルス電源

RCAビンジャック

スピーカー端子

適合インピーダンス

2~8Ω(サブウーファー)

4~8Ω(ブリッジ接続、フロント/リアch)

リニアch)

ハイカレントモード時

最大出力(フロント/サブウーファー)

150 W × 4 + 500 W × 1(4Ω負荷)

360 W × 2 + 500 W × 2(4Ω負荷)

定格出力(14.4 V, 20Hz~20kHz, NFB ON)

フロント/リア

75 W × 0.04%THD, 4Ω負荷)

90 W × 0.1%THD, 2Ω負荷)

180 W × 0.1%THD, 4Ω負荷)

サブウーファー

220W 0.04%THD, 4Ω負荷)

ハイボルテージ

280W 0.1%THD, 2Ω負荷)

# 取り付け

## 取り付ける前に

- 本機は、トランクルームに水平に取り付けてください。
- 本機を取り付けるには、十分な厚み(15mm以上)と強度をもつ取り付け板が必要です。
- カーベットの下は放熱効果が著しく減少しますのでお避けください。

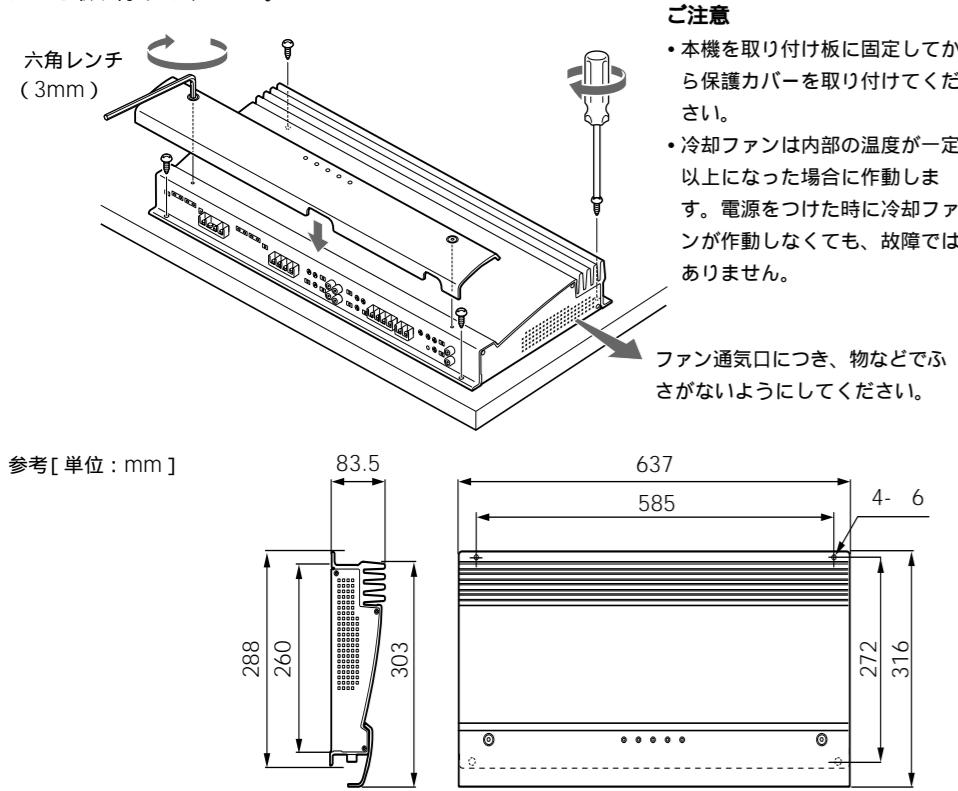
ご自分の取付け、接続が難しいときは、お買い上げ店、またはカーディーラーにご相談ください。

## 取り付けかた

十分な厚み(15mm以上)と強度をもつ取り付け板をご用意ください。  
本機を取り付け板にあて取り付け位置を決め、穴の位置に印をつけます。次に、印をつけたところに直径3mm以内の穴をあけ、付属のビスを使って本機を取り付け板に固定します。

## 保護カバーの取り付け

各つまみやスイッチの設定、各コードの接続が完了したら、図のように付属の六角レンチで保護カバーを取り付けてください。



## 故障かな？と思ったら

症状	原因(処置)
POWER/PROTECTOR	ヒューズが切れている。→ヒューズを交換する。
インジケーターが点灯しない。	アースコードが接続されていない。 →車体の金属部にしっかりと接続する。 ・本機のリモート端子への入力電圧が発生していない(または低い)。 ・接続しているカーオーディオの電源が入っていない。 →電源を入れる。
OVER CURRENTインジケーターが点灯する。	バッテリーの電圧が適切であるか(10.5~16V)確認する。 電源端子への配線が全て完了していない。 →+12V(2本)/GND端子全てへの配線を行う。
OFFSETインジケーターが橙色に点灯する。	スピーカー出力がショートしている。 →ショートの原因を取り除く。
THERMALインジケーターが橙色に点灯する。	電源コードがRCAピンコードに近い。→RCAピンコードから離す。
オルタネーターの雜音がある。	RCAピンコードが車両ハーネスに近い。→離して配線する。 アースが不十分である。→車体の金属部にしっかりと接続する。 スピーカーの端子が車体に接触している。→車体から離す。
HPF、LPF、LOW-BOOSTが効かない。	DIRECTスイッチが「ON」になっている。
音が小さい。	LEVELつまみが「MIN」になっている。
音がこもる。	FILTER選択スイッチが「LPF」になっている。
音が出ない。	各選択スイッチが完全に替わっていない。
テストトーンが鳴らない。	配線が正しく行われていない。→再度接続し直す。

以上の処置を行っても効果が見られないときは、接続に問題があるか、故障と考えられます。お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

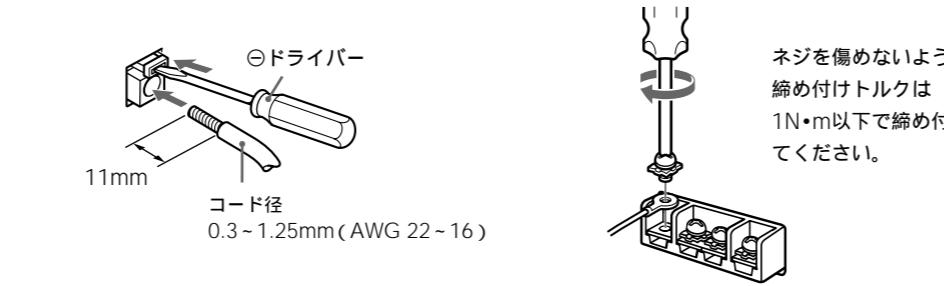
# 接続

## 接続する前に

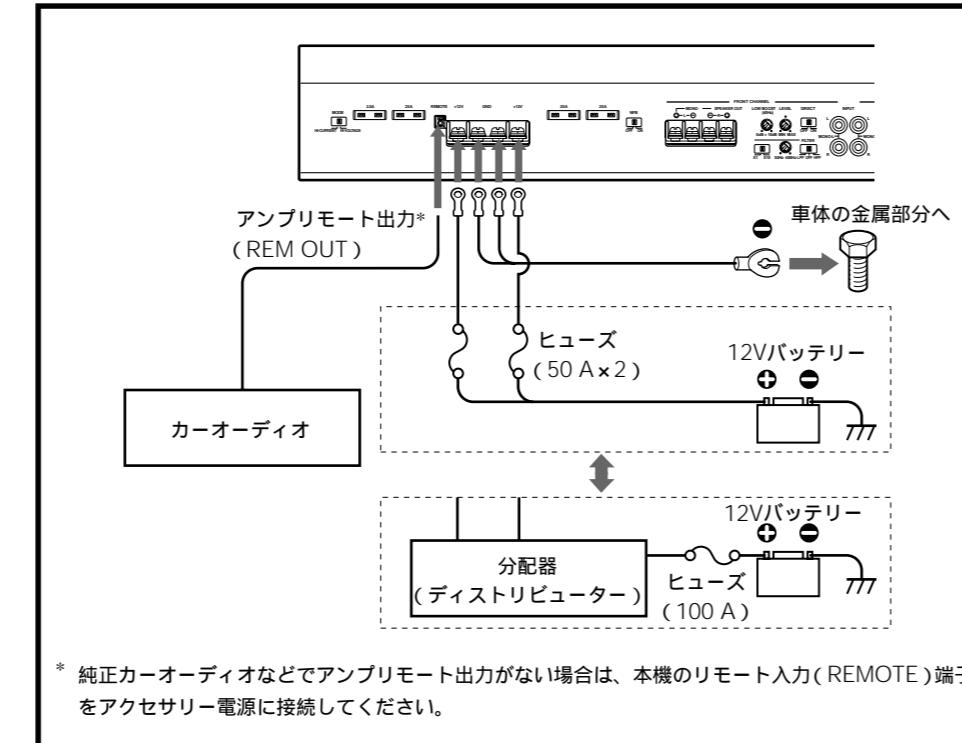
- 作業中のショート事故防止のため、本機の電源コードの接続は、必ずイグニッションキーをOFFにして行ってください。
- 電源コードは必ず最後に接続してください。
- 入出力コードと電源コードを近づけて配線するとノイズが出ることがありますので、できるだけ離して配線してください。
- 本機はハイパワーアンプのため、車に既設のスピーカーコードを使うと性能が十分に発揮されないことがあります。
- スピーカーの△側を車のシャーシなどに接続したり、スピーカーの△側どうしを接続したりすると故障の原因になります。
- 十分な許容入力を持つスピーカーをお使いください。このアンプは大出力が得られますので、許容入力の小さいスピーカーを使用すると、アンプの性能が十分に発揮されないばかりでなく、スピーカーを破損することがあります。
- 適合インピーダンスのスピーカーをお使いください。フロント / リア - 2~8Ω(ブリッジ接続時4~8Ω)  
サブウーファー - ハイカレントモード 1~2Ω  
ハイポルテージモード 2~8Ω

- 本機のスピーカー端子にアクティブスピーカー(アンプ内蔵のスピーカー)を接続しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。
- この取扱説明書(取り付けと接続)に記載されている取り付け、接続先の機器は、全て別売り品(市販品)です。(付属品は除きます。)

下図のように、コードを接続してください。



## 電源コードの接続

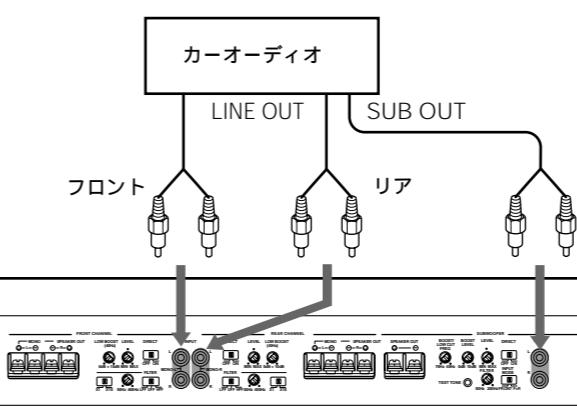


### ご注意

- 電源コードはすべての接続を済ませてから、一番最後に接続してください。
- パワーアンプのアースコードは車の金属部分に確実に接続してください。確実に接続しないと、故障の原因になります。
- カーオーディオのリモート出力コードを本機のリモート入力(REMOTE)に接続してください。カーオーディオにアンブリモート出力がない場合は、車のアクセサリー電源と本機のリモート入力(REMOTE)端子を接続してください。
- 車のバッテリーから直接電源をとる(車のバッテリーから直接、本機の電源端子(+12V)端子に配線する)場合、使用する配線コードは太さ6ゲージ AWG-6、断面積13mm<sup>2</sup>以上のコードを使用し、可能なかぎりバッテリーに近い位置に必ずヒューズ(100A)を配置してください。
- 別売りの電源コードRC-46をご使用になるときは、そちらの説明書をご覧ください。

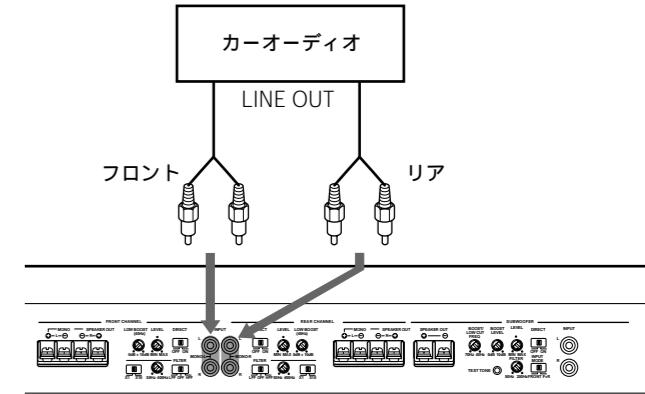
## インプット接続

### A ラインインプット(6ch)接続(スピーカーの接続1の場合)



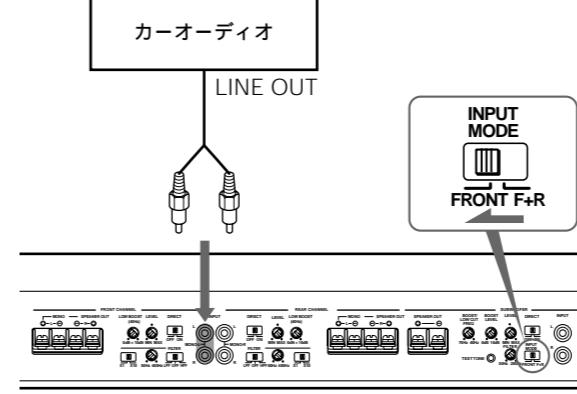
### B ラインインプット(4ch)接続(スピーカーの接続1の場合)

—サブ出力の無いカーオーディオと接続するとき



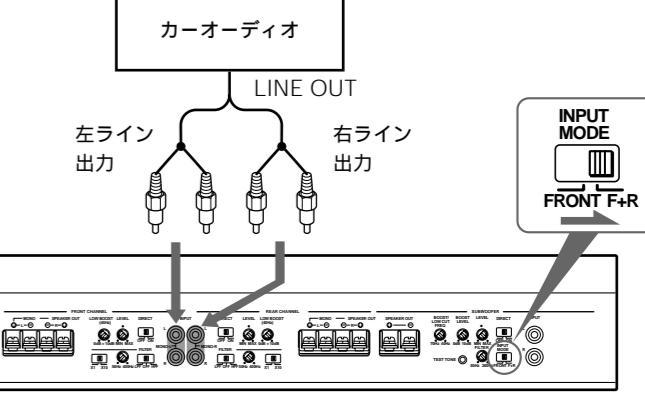
### C ラインインプット(2ch)接続(スピーカーの接続1の場合)

—1系統しかライン出力の無いカーオーディオと接続するとき



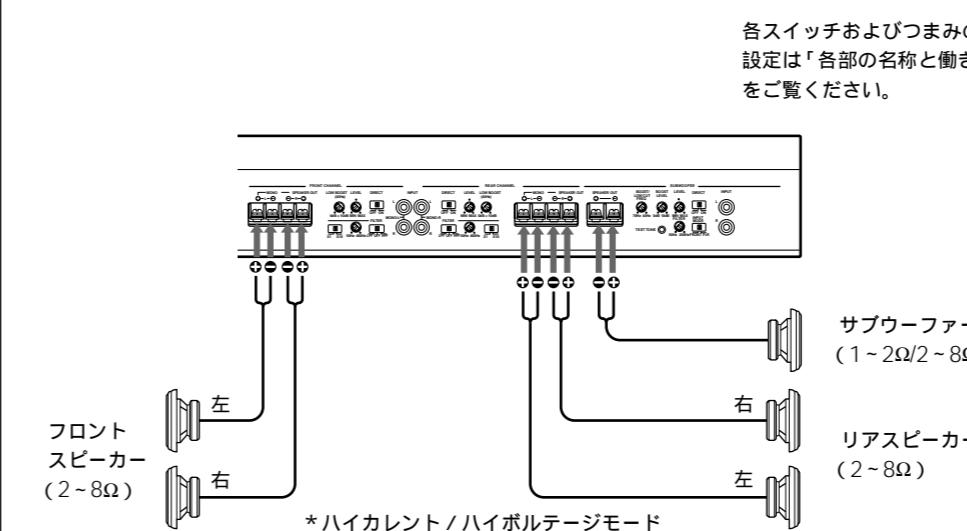
### D ラインインプット接続(スピーカーの接続2の場合)

—1系統のライン出力を分岐して接続するとき



## スピーカー接続

### 1 5スピーカーシステム(インプット接続A、BまたはCの場合)



### 2 3スピーカーシステム(インプット接続Dの場合)

